

アグリ | WORK POINT



果樹林産センター 小柳 博明

6月の管理

ミカンは、生理落果期を迎えます。この時期に病害虫の被害を受けると、果実が肥大したときに大きな被害となってしまいます。着果量に応じた適切な栽培管理と病害虫防除が重要です。

生理落果

生理落果は、幼果と新梢の栄養分の奪い合いによって引き起こされます。早く新梢を緑化させることが、生理落果の抑制に繋がります。

着果管理

着果の多い樹

樹勢の維持や連年結実を目的に、生理落果終期より早期摘果に取り組みましょう。大玉になりやすい品種は、**樹冠上部摘果**や**枝別全摘果**といった部分的な摘果を行い、果実の肥大を抑えながら来年の結果母枝を確保します。

着果の少ない樹

生理落果を軽減するために新梢の芽かきや摘芯、発育枝、被さり枝の剪除を行い、着果数の確保に努めましょう。

葉面散布

5 着果の多い樹は樹勢維持や回復に、着果の少ない樹は早期緑化による生理落果軽減を目的に、尿素500倍を5〜7日置きに3回程度散布しましょう。

夏肥

新葉が緑化するにつれて根の活動が活発になり、地温も上がることで、吸収効率が良くなります。今後、品質向上に向けて、樹にストレスをかけるので、樹勢維持や糖酸の蓄積を図るための施肥が重要となります。

- ・ 青島温州 6月上旬 みかん化成1号 60kg/10a
- ・ 早生温州 5月下旬 ダブルクイック668 40kg/10a

病害虫防除

黒点病は、防除後30日を経過するか累積降雨量が250mmになった時点で、再防除してください。害虫の発生が見られたら、殺虫剤も混用しましょう。管内の降雨量は、JAおおいがわのホームページで確認できます。

また、伝染源の枯れ枝の除去も行いましょう。近年、ゴマダラカミキリの被害による樹勢の低下や枯死が増えています。一般的に6月中旬〜7月中旬が成虫発生のピークになるので、6月上旬にモスピランSL液剤などの殺虫剤を株元に散布し、予防しましょう。

6月上旬

・ 黒点病

- ・ エムダイファー水和剤 600倍(60日〜2回)
- ・ チャノキイロアザミウマ、カイガラムシ類

アクタラ顆粒水溶剤 2000倍(14日〜3回)